

令和7年度「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告書

春日井市立藤山台小学校

事業テーマ	子どもが主語となる学校生活をめざして ～授業・行事を通して主体性を高める～	
取組の目的	本校では、子どもたちが「学校に来ることが楽しい」と思えるよう、子どもが主体的に活動できる学校を目指したいと考えています。そのために、授業においては、令和4年度から研究テーマとしている「自分で学び続ける子の育成」に取り組み、子どもたちが自ら課題を追究したり、友達と協力して学びを深めたりすることができるようにしていきます。また、行事については、地域とのつながりを大切にしたい行事の実施・参加に加え、学校行事において、子どもたちが主体的に活動できるよう取り組むこととしました。	
区分 (○印を付ける)	新規事業・ 継続事業 (総事業年数 3年間、3年目)	
事業名	事業内容	実施時期
子どもが主語となる学校生活をめざして ～授業・行事を通して主体性を高める～	○地域連携室との連携 地域の人に学ぶ会、図書ボラ読み聞かせ、トイレ清掃ボラ、花ボラ・学習会、地域運動会など ○学校行事 藤小フェスティバル、縦割り班活動、児童会活動、運動会なかよし班綱引きなど ○授業改善 講師招へい、校内授業研究の実施、授業視察、研究会参加個人探究推進など	令和7年4月～ 令和8年3月

学校運営協会との連携





今年度も学校運営協議会と地域の方々に子どもたちの学校生活を支えていただいています。実際には、今年度も子どもたちと一緒にを行うトイレ掃除や、図書・園芸ボランティアとして日常的に活躍していただいております。さらに夏休みには、学校運営協議会主催で近隣高校生も参加する学習会や、「おやじの会」によるマジック講座、子ども達が司会を進める地域運動会といった素晴らしいイベントも開催されました。どの活動も大変盛り上がり、子どもたちの知的好奇心や笑顔を引き出す素晴らしい機会となり、多くの児童が積極的に参加しました。



一連の活動を通して、子どもたちの地域への関わり方が変化してきました。児童会と地域の意見交流会や地域運動会への参加をきっかけに、活動はより主体的なものへと進化しています。子どもたちの中に地域との絆が昨年度以上に強く芽生え、地域行事やボランティアにも自発的に参加するようになるなど、地域の一員としての意識と行動が着実に育まれています。

学校行事



昨年度に引き続き、運動会では児童会が主催となるなかよし班綱引きを実施しました。さらに今年は、全校レクリエーションや意見箱の設置といった新たな企画にも挑戦し、子どもたちの主体性や積極性をより一層高める良い機会となりました。

授業改善



年3回行われる校内授業研究会では、東京学芸大学の高橋純先生にご指導・ご助言をいただき、一人ひとりの子どもを主語にした学校教育について、子どもたちの考えが深まっていく学びの質の向上が必要であることをご指導いただきました。



3年～6年生では、総合的な学習の時間に個人探究を行いました。それぞれに知りたい・見つけたい課題に取り組みます。たくさんの課題がうまれることから、保護者や地域の方の支援をお願いし、保護者・地域サポーターとして子どもへのアドバイスや助言と

いった探究支援活動も行いました。また校区探検や校外学習などの場における見回りサポーターとしてもご協力いただき、子どもたちの学びを力強く支えてくださっています。

取組の成果：

今年度は、昨年度から大切にしてきた地域とのつながりをさらに一歩進め、子どもたちが学校生活のあらゆる場面で「主役」として活動する姿が多く見られました。

学習面では、教職員が教科の枠を超えた授業づくりに注力したことで、子どもたちは「算数で学んだことが理科でも使える！」といった知識のつながりを実感し、自ら問いを立てて探究する場面が増えています。また、友達との多様な意見交換を通して、一人ではたどり着けない深い学びに触れる経験も積み重ねてきました。

コミュニティ・スクールとしては2年目を迎え、学校運営協議会を中心としたボランティア活動や地域行事への参加がいっそう定着しました。地域の方々に見守られ、支えられる経験を通して、子どもたちの中に「地域の一員」としての自覚と、感謝の心が着実に育っています。

令和8年度に向けては、これらの歩みを土台に、総合的な学習の時間における「個人探究」をさらに充実させ、子どもたちが自分の興味・関心を社会とつなげて考え、より主体的に、意欲的に行動できる学校づくりを地域とともに推進してまいります。